

第1回調査会意見と対応

平成27年2月16日(月)

第1回 輸出入コンテナ貨物における鉄道輸送促進に関する調査会での意見と対応

【鉄道利用の促進について】

- 鉄道輸送はリードタイムにおける安定性、輸送コスト等の点から区間によってメリットがある。
- トラック&トレース情報を確実に顧客に提供することで利用するメリットが増す。
- 荷主においては、貨物鉄道、特に輸出入コンテナの鉄道利用については認知されていない。
- 人気路線、40ftコンテナであれば更に輸送枠の確保が難しい。また、40ftコンテナ取扱可能駅が少なく、インフラ面での改善や特に輸出入コンテナの偏積についての対応方策も必要。
- 関心が薄い荷主への働きかけや鉄道の積載可能スペースの存在は重要。
- 鉄道輸送の場合、両端にショートドレージがあり、そのコストも存在することを認識しておかなければならない。長距離のドレージ輸送の実態と理由は知りたい。
- 荷主が求めるサービスレベルを分けて、見合ったコストを変動させる仕組みがあれば、鉄道利用が促進されるのではないか。
- 輸出入コンテナのショートドレージを行わずに直接鉄道貨車に積み込むにはどうすればよいかを調査研究することが近道。
- 利用促進のためには、オンシャーシでの利用だけでなく、鉄道駅をインランドコンテナデポとして活用する施策が必要ではないか。
- 利用運送事業者が保有する31ftウィングコンテナや低床貨車の活用による40ft背高コンテナ輸送の全国展開等、出来るところから進めてはどうか。

【アンケートについて】

- 設問が多い。回収率を高める工夫が必要。回答者に興味を持ってもらえるよう冒頭に主旨説明も必要。

- 荷主や物流事業者へのアンケート、意見交換を通じて、輸出入コンテナ貨物の実態、貨物鉄道輸送への関心、利用可能性、懸念事項等を把握。
- その結果を踏まえつつ、鉄道利用促進の課題整理、対応方策の方向性を検討。